

芸術表現を通じた「芸術の昇華機能」の探究や新たな可能性の模索、及び「パブリックアート」研究

造形短期大学部
造形芸術学科
教授
黄 禧晶



研究シーズの紹介

本研究者は「芸術行為を通しての芸術の昇華機能」に着目し、人間のあらゆる元型の分析を行うとともに、芸術のあり方に対する問いかけとして研究を続けてきた。近年は新たな研究テーマとして「ミチ」という課題に取り組んでいる。我々が歩んできた、歩んでゆく、その不明確なミチ、未知なミチをテーマとし、また混沌なカオスのミチに立ち、耐えない生命力で糸口を探ってゆく過程を表現する。尚、芸術の昇華機能を

更に身近な場で立証出来るパブリックアート（公共アート）研究も継続して並行してゆく。R5年も様々な公共の場においてそのニーズに合った壁面制作を行っていた。特にR5年度は壁画だけではなく、インスタレーション、イラスト提供などの様々な形でのパブリックアートが展開出来た。R6年度も身近に触れる場でのパブリックアートの実践を遂げていく予定である。



芸術表現によるアートセラピー パブリックアート

- 芸術表現や鑑賞によるアートセラピー効果が期待できます。
- パブリックアートによる地域貢献が期待できます。



期待される活用シーン

● パブリックアートにおいては対象地域の特性、歴史に関連つけてのテーマや内容が求められる。



町おこしの企画イベントなどと絡み合わせて制作、講評することでより幅広い宣伝効果が得られ、尚継続したプロジェクトの実行が実現できている。



● 依頼側、ユーザーの要望に沿ったデザイン案であること、内容がはっきり伝わるようなデザインを提案すること



継続可能な形でのアートの提供、見易く明るいアートの提供であること



その他の研究テーマ